



「ほくろ」はこわい？ こわくない？

問 稲城市保健センター ☎378-3421

「ほくろのガンはこわい」という話を聞かれた事があるでしょうか。テレビでも、悪性黒色腫（メラノーマ）と言われるほくろのガンが命に関わる病気であること

を啓蒙する番組が年に数回放映されており、翌日からほくろの診断を求める患者さんで皮膚科は混雑します。皮膚科の「お客さん」を増やすための宣伝と誤解されるかもしれませんが、きちんとした理由が二つあります。

一つは、悪性黒色腫などの皮膚がん自体はまれですが、ひとたび皮膚がんが診断された場合、手術などの適切な治療を受けないと命に関わるという事です。もう一つは日本人に特有の、手や足の「ほくろ」がガンと診断される確率が他の人種に比べて高いと

いう事実です。

診断は皮膚科専門医がダーモスコピー（特殊な拡大鏡で模様やパターンを観察する検査）で行います。手術が必要な場合は病変を全て切除し、病理検査で診断を確認します。ガンではなく、ほくろと

思われる場合でも心配であれば切除し、病理診断を確認できます。熟練した専門医はただ切除するだけでなく、傷がきれいに治るように縫うこともできます。また、いぼなどの出来物も切除による検査ができ、レーザーなどできれいに切除できる施設もありま

す。

稲城市内には皮膚科専門医の認定を受けた医師が6名在籍しています。皮膚がんと診断されても、市立病院には手術、抗がん剤治療までを行える設備と技術が備わっています。

ガンかもしれないと考えると不安になりますが、実際にはめったにない事です。診断を受ければ安心してきるはずです。思い立ったら、まずは近くの皮膚科専門医に相談してみてください。

稲城市医師会 中捨 克輝

なかまて かつき